

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2021. 1. 12

第17号

いきいき なかよく ほこりを持って

令和3年 今年もよろしくお願いたします

皆様、新年あけましておめでとうございます。お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願申し上げます。

1月7日（木）は、3学期始業式でした。楽しい年末年始を過ごしてきた子ども達は、みんなとてもいい表情で、校長の話にもよく反応していました。始業式では、校長より次のような話をしました。

「『一年の計は元旦にあり』の意味は、新しい年の計画を年初めの元旦にきちんと立てる、何かを始める時には計画をきちんと立てることが大切だということです。三学期の早いうちに、三学期や今年の目標、めあてをしっかりと持って、心新たにがんばりましょう。3学期を迎えるにあたってがんばってほしいことは、『寒さとコロナに負けないこと』『一年間の学習のまとめをしっかりと』『学校の機関車を引き継ぐ』ということです。みんなで、いい3学期、いい2021年にしましょう。」

1月8日（金）は、書き初め大会を行いました。例年ならば、毛筆で書き初めを行う3～6年生はホールで一斉に行うのですが、今年は感染症対策として各教室で行いました。添川小学校の建物全体がしーんと静まり返り、子ども達の集中が伝わってくるひとときでした。1年生は鉛筆で「春の七草」（本校の伝統のお手本）、2年生はペンで「楽しいお正月」、3年生は「よろこび」、4年生は「生きる力」、5年生は「新春の光」、6年生は「夢と希望」と書きました。今週末～1月末頃まで1階廊下に掲示されます。ぜひご覧ください。



< 1 年 >



< 2 年 >



< 3 年 >



< 4 年 >



< 5 年 >



< 6 年 >

【おめでとう】 税に関する絵はがきコンクール

(敬称略)

長井法人会女性部会長賞

6年 菊地 彩波

第71回山形県文集コンクール

最優秀賞

飯豊町立添川小学校 文集『いなほ』第51号

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために (その11)

愛着形成に臨界期はあるか

私が今まで出会ったたくさん子ども達の中に、多動傾向かな、と思えた子ども達が何人もいます。

保育園の年中児の運動会や発表会あたりから、ほかのお子さんとの違いを保育士さんや保護者が認識して、相談を希望することが多いようです。私もそのような相談を今までたくさんさせていただきました。

私は経験的にその子どもたちが次の4つのグループに分けられるように思います。

- ① 低学年くらいまでちょろちょろしていて、しだいに落ち着く子
- ② 受診するとADHDの診断を受ける子、あるいは「コンサータ」などの薬を処方される子
- ③ 今まで見逃されてきた軽度～中度の聴覚障がいのある子
- ④ 担任や保護者との相談や連携を行い、成果が上がってくると、多動傾向が消えていく子

いわゆる「愛着障害」かもしれないのは、④です。米澤好史氏は次のようにいいます。

「愛着とは、「特定の人に対する情緒的絆」のことで、こどもにとって、恐怖や不安から守ってくれる[安全基地機能]、そこに行くとき落ち着く、ほっとする[安心基地機能]、そこから離れても大丈夫で、離れて行ったことを報告して認めてもらう[探索基地機能]の三つの機能があります。この絆が育っていない問題が、愛着の問題です。」

さて、愛着には「臨界期」はあるのでしょうか。岡田尊司氏は次のようにいいます。

「愛着が生物学的現象であることと関連するが、愛着の形成は、いつでも起きるといえるわけにはいかない。刷り込み現象と同じように、愛着形成が可能な時期は、生後の一定期間に限られるのである。この期間は「臨界期」と呼ばれ、生後一歳半までが、その時期に当たる。その時期を過ぎてしまうと、愛着形成はスムーズにいかなくなる。後から取り戻そうとしても難しいのはこのためである。」これに対して、米澤好史氏は次のようにいいます。

「愛着形成に臨界期があり、生後一歳六か月までに形成されないとその後には形成はできないという考え方が以前ありましたが、それは間違いです。今でも、敏感期と言って、こどもが大きくなると鈍感になり、愛着形成・修復が難しいという考え方がありますが、筆者は、多くのこどもでの愛着修復に成功した事例から、それを明確に否定したいと思っています。誰かが適切なかわりをしていないからそう見えるだけであって、愛着形成は生涯発達するものなのです。」

両者は相反することを述べているようですが、愛着の問題を抱える子どもを含め、私が今まで出会ってきた(相談してきた)子ども達を振り返ると、どちらの主張も実感として正しく感じます。

私は、①生後1歳半くらいまでの時期はきわめて大切である、②親や教師等が適切なかわりをするれば愛着形成は生涯発達するものである、このように考え、教育や相談の仕事に携わっていきたいと思っています。

<文献> 『やさしくわかる!愛着障害』、米澤好史著、ほんの森出版
『発達障害と呼ばないで』、岡田尊司著、幻冬舎新書

<御 礼>

令和2年度飯豊町成人式実行委員の皆様より、飯豊町内の児童生徒に抗菌加工のマスクケースを贈呈いただき、配布いたしました。お世話になった飯豊町への恩返しと、これからの未来を担う子ども達に貢献したいとの思いから、「子ども達が笑顔になれるマスクケース」を制作し、配布してくださったものです。素晴らしい新成人の皆様のご取り組みだと思っております。本校としても、改めて深く感謝申し上げます。